

データサイエンス共同利用基盤施設  
平成 30 年度 第 7 回運営会議 議事概要

日 時：平成 31 年 2 月 20 日（水）13:30～15:30

場 所：データサイエンス棟 1 階 共通会議室（元共通作業エリア）  
（東京都立川市緑町 10-3）

出席者：【内部委員】藤山委員、門倉委員、吉野委員、北本委員、野水委員

【外部委員】岩崎委員、近藤委員、諏訪委員、高橋委員

【陪席】 前畑企画連携課長、橋本企画連携課副課長、昨間 DS 推進係長、秋元 DS 推進係員

議 事：

議事に先立ち、昨間 DS 推進係長から、定足数を満たしていることから本会議が成立することが報告された。

審議事項

1. 平成 31 年度規則改正について（新センター設置）

藤山委員から、平成31年度に新たに設置するデータ同化研究支援センターについて説明があったのち、昨間DS推進係長から、資料 1－1 から 1－3 に基づき、新センター設置に伴う機構の組織運営規則等の改正について説明があり、審議の結果了承され、組織運営規則についてはこの内容にて機構の諸会議に諮ることとした。

2. 平成 31 年度人事について（新規採用、客員ほか）

野水委員から、資料 2－1 に基づき、平成30年度の現時点における職員の兼業状況について説明があった。続いて、資料 2－2（別冊）に基づき、平成31年度人事について、新規採用・継続・客員等の説明があり、計51名について審議の結果了承された。加えて、資料 2－3 に基づき、平成31年度の各センター長について機構長から指名があった旨説明があった。

3. 2019 年度公募型共同研究について

野水委員から、資料 3－1 から 3－3 に基づき、2019 年度公募型共同研究は電子申請システム（JR0IS）を導入する旨の説明があり、審議の結果了承された。なお、募集要項（案）は、転載を許可するか、受入れ教員はどの役職までを範囲とするのか等、修正・検討を加えていくこととなった。

報告事項

4. 平成 30 年度予算執行状況及び平成 31 年度 DS 施設予算方針について

藤山委員から、平成 31 年度機構としての予算配分状況について説明があった。続いて、橋本企画連携課副課長から、資料 4－3 から 4－4 に基づき、平成 30 年度予算執行状況に

について説明があったのち、資料4－1から4－2に基づき、平成31年度DS施設予算方針について説明があった。また、平成31年度からは人事面や財務面でDS推進室として把握していきたい旨が伝えられた。

## 5. その他

- ・野水委員から、資料5に基づき、平成30年度にライフサイエンス統合データベースセンターが科学技術振興機構のSIP（戦略的イノベーション創造プログラム）課題に採択されたことについて、報告があった。
- ・北本委員（人文学オープンデータ共同利用センター長）から、CODH共催により2019年2月13日～4月14日に京大で開催される「カメラが写した80年前の中国—京都大学人文科学研究所所蔵 華北交通写真」について、中国でSNSを発端として話題になっているとの報告があった。
- ・吉野委員（社会データ構造化センター長）から、センター内の3グループを統合するプラットフォームを製作中であり、情報利用に関する倫理上・法律上の問題についてセンターとして教育・啓発を進める使命があるとの報告があった。
- ・門倉委員（極域環境データサイエンスセンター長）から、2018年11月12日～15日に三島で開催したデータサイエンス国際ワークショップについて、海外、特にアジアからの来訪者が多く、ポスター発表した沼津高専の学生からの評判もよいなど、盛況のうちに終了した旨の報告があった。
- ・岩崎委員から、所属する横浜市立大学データサイエンス学部設立後の詳しい状況説明ならびに同分野にかかる他大学の状況等について報告があった。加えて、アカデミアには生のデータが必要なため、企業との連携が大事であるとの発言があった。
- ・諏訪委員から、所属する青山大学理工学部に来年度に数理サイエンス学科を設置する旨の発言があった。
- ・高橋委員から、高専には強力なネットワークがあり、どの高専にいても最先端の教育を受けられるとの発言があった。
- ・藤山委員から、各委員の意見交換に対して謝辞があり、教育の重要性を再認識した旨の発言があった。